

## 秋のソナチネ

### Act.1

一人の女、由果子が登場し、ピアノを見て、ソナチネアルバムを開き、ピアノの蓋を開け、赤い布をピアノの上に置いて、ピアノの椅子に座る。

「ソナチネアルバムの9番」を弾く。

### ～♪～SONATINE-9

奥から男が一人、篤哉が登場し、ピアノを弾く由果子を見る。やがて蕎麦打ち台の上で、蕎麦粉と中力粉の計量を始め、篩にかける。

演奏を終え、由果子が篤哉の作業を見る。

由果子 それは？

篤哉 これですか

由果子 そうやって量るんですか

篤哉 ええ

由果子 結構細かいんですね

篤哉 まだ、経験が浅いので

由果子 え？

篤哉 慣れた人なら、感覚でやれちゃうらしいんですけど、僕はまだここを慎重にやらないと後で大変なことになっちゃうんで

由果子 そうですか

間

由果子 あの

篤哉 はい

由果子 何かお手伝いできることはありますか

篤哉 え？

由果子 (立って)何でもやりますから

篤哉 ああ

由果子 仰って下さいね

篤哉 ええ

沈黙

由果子 本当に

篤哉 あ、ありがとうございます。でも今は結構です

由果子 ……(長い沈黙)

篤哉 本当に

由果子 (無言でピアノに座る)

更に長い沈黙

篤哉 そうだ

由果子 (篤哉を見る)

篤哉 大根

由果子 大根

篤哉 お願いしていいですか

由果子 え？

篤哉 大根を

由果子 大根

篤哉 2本

由果子 2本

篤哉 ええ

由果子 大根おろし？

篤哉 いえ、買ってくるのを忘れちゃって

由果子 大根2本

篤哉 ええ、買い物

由果子 2本の大根

篤哉 いいですか？

由果子 はい

篤哉 出て左へ 100メートルぐらいのところに市場があって、そこの入ってすぐのところに八百屋さんがあるんですけど

由果子 出て左？

篤哉 左です

由果子 すぐにわかりますか

篤哉 え？

由果子 その市場

篤哉 そんなに大きくない市場ですけど、すぐにわかります

由果子 普通の大根でいいんですか？

篤哉 え？

由果子 何か特殊な大根じゃなくていいんですね？

篤哉 ああ、ええ、一般的な青首大根で結構です

由果子 青首

篤哉 八百屋さんも、一軒しかありませんので

由果子 そうですか

篤哉 今お金、取ってきますから、領収書をもらって来てください(と、去る)

由果子 領収書

由果子一人残って外の方角を見て、ピアノの上の赤い布を見て手に取る。

由果子 大根

赤い布をマフラーのように首に巻き

由果子 青首…

そこへ下手前方から一人の男、順が登場する。

順 なんだ、ここにいたのか

由果子 なあに

順 何してるの？

由果子 お買い物頼まれてたの

順 そう

由果子 何それ、おっきいね

順 チェロ

由果子 これがチェロ？

順 だと思っよ

由果子 バイオリンにしては大きいもんね

順 そうねえ

由果子 (首にはさもうとしてみる)無理か

順 チェロだよ

由果子 チェロだ

順 かなり古いものだけどね

由果子 音、鳴る？

順 どうだろ(弦をピッチカートするように少し弾く)

由果子 弾いてみて(ピアノの椅子に座る)

順 うん(チェロの椅子に座る)

そして、二人で「秋のソナチネ・2番」を演奏する

～♪～秋のソナチネ・2番

二人の演奏が始まって間もなく、奥から買い物かごを手にした篤哉が現れる。二人が演奏するのを見て、籐の作業に戻る。

音楽の終り近くで篤哉の周りだけに明かりが残り、それ以外は暗くなる。

## Act.2

演奏が終わるとラジオの番組が聞こえてくる。やがてピアノの上にあるラジカセに明かりが入り、篤哉の作業は<水回し>に移る。

ラジオからの声 厚岸町のピンキーさんからリクエストいただきました、「秋のソナチネ・2番」をお送りいたしました。さあ、続けてドンドンお便りのご紹介を進めてまいりましょうね。これは、留寿都村の矢田部伊三郎さん、でいいのかな？リクエストしていただきましたのが、谷川昭一郎さんの「恋はウキウキ」ですね。これ今話題になっている映画の主題歌で主演の谷川昭一郎さんが自ら歌ってらっしゃるんですよ。「帰郷プレスリー」ですか、映画も大ヒットでねえ、年末の紅白歌合戦に初出場も決まりました。ではお送りしましょう、谷川昭一郎さんで「恋はウキウキ」

こんな放送が聞こえる中、一人の女、宣子が下手奥から現れる。篤哉を見て、ピアノを見て、ピアノに近づく。篤哉は宣子の登場に気づき、宣子を見るが、すぐに作業を続ける。宣子は「恋はウキウキ」という曲の前奏が終わって、ボーカルが入って「恋はウキウキウッキキー！」あたりでラジカセの電源を切る。

宣子 このピアノ？

篤哉 (作業を続ける)

宣子 何考えてんのよ

篤哉 (作業を続ける)

宣子 (舞台中央の椅子に座って)水一杯くれる？

篤哉 (作業を続ける)

宣子 ねえ！

篤哉 え？

宣子 水ちょうだい

篤哉 今手が離せないから

宣子 (立ち上がり水をコップに酌み、上手奥を覗き)いるの？

篤哉 (作業を続ける)

宣子 いるの

篤哉 いない

宣子(声) どこ行ったの

篤哉 (作業を続ける)

宣子 (コップ片手に現れて)どこに行ったのよ

篤哉 買い物

宣子 買い物？

篤哉 だと思

宣子 何の買い物

篤哉 大根

宣子 大根？

篤哉 そう

宣子 なんで大根よ

篤哉 頼んだ

宣子 誰が

篤哉 俺が

宣子 何で

篤哉 買っとくの忘れたから

宣子 なかったの

篤哉 そう

宣子 二人で？

篤哉 なにが？

宣子 買い物

篤哉 ああ…だと思

宣子 (水を少し飲む)

篤哉 (作業を続ける)

宣子 何か話した？

篤哉 何かって？

宣子 二人と

篤哉 俺？

宣子 そう

篤哉 (作業の手を止め、ちょっと考える)

宣子 何か話した？

篤哉 (作業を再開して)

宣子 何も話してないの？

篤哉 (作業を続ける)

宣子 何でよ

そこへ下手奥からバイクのエンジン音が近づき、ヘルメットをかぶった男が登場する。一郎である。

一郎 ざいま～す(そのまま上手奥に去る)

篤哉 お早うございます

一郎 (奥から)あれ、今日まだなんすか？

篤哉 ああ、そう

一郎(声) もう時間すよね

篤哉 そうね

一郎(声) ああ、俺、明日休みなんすけど、実家から電話来たんすけど、何か都合悪いみたいなんすよ、なんで、明日出てもいいんすけど

何故か突然明かりが消えて、外(下手奥)からの外光のみになってしまう

一郎(声) どうすかね。俺はどっちでもいいんですけど

篤哉 一郎さん

一郎(声) あ？

篤哉 電気

一郎 (上手奥から現れて)なんすか、あれ？

篤哉 電気

一郎 電気？

篤哉 消さないで

一郎 あ、俺っすね、すみません(奥に去る)

篤哉 早くつけて

一郎 (奥から声だけ)え〜っと、暗いっすね、でもあれすね、夏なら5時でも明るいすよね、何で冬は5時だと暗いすかね

明かりが一度付くが、すぐに消える

一郎 びっくりっすよね、朝は7時でも暗いし、何ですかねえ(現れて)あ？

篤哉 一郎さん

一郎 あ？

篤哉 何で二回スイッチ押すんですか

一郎 (奥で)押してないすね、変すね

明かりがつく

篤哉 ついた

一郎(声) ついたすか

篤哉 つきました

一郎 (現れて)あ〜、俺あそこ行くの忘れてたすけど、どうしたらいいすかね

篤哉 あそこってどこですか

一郎 あ〜、あそこすよ、あそこ。ほら、えーと、階段

篤哉 階段？

一郎 階段じゃないすね、え〜

篤哉 行って何するのを忘れたんですか

一郎 あ？あれすよ、ほら、器

篤哉 ああ、出前の器ですか

一郎 そうそう、出前の器、2個、取りに行かなくちゃならないんですけど、今行った方がいいすかね、後でもいいすかね

篤哉 どっちでもいいですよ

一郎 ああ、暖簾まだすね、あれすか、新蕎麦の幟、夜も出すすか？昼だけでいいすかね、夜見えないすからね(宣子に気づいて)あ？もうお客さん、いたんすか、そうすか、早いすね、いらっしやいっす(ピアノに気づいて)あ？ああ？あ？なんすかこれ？あ？なんすかなんすか？

篤哉 ピアノです

一郎 そうそう、ピアノすね、へえ。あ〜やっぱ俺今のうちに出前の器下げに行って来ますね

篤哉 ああ

一郎 ね、あそこ平野さん、そうそう、平野さんすよね、美人姉妹の平野さん、一回お姉さんの方、素っ裸で出てきて、もう、あせったっすよ、でも妹さん一度お姉さんに内緒で、男連れ込んでたんすよ。俺見たんすよ、二人前のあれ開店した当初っすよね。二人前の天麩羅蕎麦こう肩に乗っけて、ピンポオ〜ん、はあ〜い、って妹さんあれ変な男物のシャツみたいなの羽織って出てきて、玄関ちよっとしか開けないすよ。で天麩羅蕎麦二つ入れなきゃなんないすから、こうドア押さえて、アッチッチイってやったんすよ。そんな時、俺見たんすよ、男物の靴。あれやっぱいすよね、お姉さん怖いっすよ。今行ったらきっと玄関のところに器置いてあるんすよ。何すかこのピアノ？

篤哉 (仕事を続ける)

一郎 屋はなかつたっすよね

篤哉 (仕事を続ける)

一郎 俺2時半までここにいたっすから、あ？ 2時間半っすか？ 今5時だから、ああ、3時間半か、あ？ 4時間半？

篤哉 2時間半です

一郎 2時間半でピアノ生えないっすよ、ありえねえ〜

篤哉 一郎さん

一郎 あ？  
篤哉 やっぱり、平野さんのとこ、器、先に下げてきてもらえますか  
一郎 あ？ 何、平野さん、美人姉妹？  
篤哉 ええ  
一郎 だよねだよね  
篤哉 すいません  
一郎 バイクで行く？ 歩き？ バイクに乗るほどの距離じゃないっすよね。でも寒いからバイクっすかね  
篤哉 ですね  
一郎 バイク乗ったらもっと寒いっすよね  
篤哉 ああ  
一郎 このジャンパー裏地マジすごいですよ、風入んないっすよ、でもそろそろ軍手卒業っすよね。風邪ひいてね～な～。子供の頃って馬鹿じゃないすか。風邪ひいて鼻詰まってティッシュで鼻かんで、かみ過ぎて、よく脳みそ出してる子供いたっすよね。鼻から脳みそ、風邪やばいっすよ、まじで、じゃ、行ってきやあ～っす(下手奥から去る)

宣子が立ち上がり見送る。下手奥袖から一郎が一人で喋っているのが聞こえる。

一郎 うっそお、ってゆーか、凄過ぎシイタケ！普通じゃねえっす！ありえねっす！わっはっははひよ～い！

遠ざかるエンジン音

宣子 誰？  
一郎 ん？  
宣子 今の人  
篤哉 一郎さん  
宣子 どういう人？  
篤哉 どういうって  
宣子 前からいた？  
篤哉 時々手伝ってもらってる  
宣子 他にいないの？

篤哉 何が？  
宣子 いい人  
篤哉 いい人だよ  
宣子 何してる人？  
篤哉 ……  
宣子 ここの手伝いだけで食べていけないでしょ  
篤哉 ……  
宣子 何してる人？  
篤哉 ……知らない  
宣子 知らないの？  
篤哉 (仕事を続ける)  
宣子 (ピアノの椅子に座る)  
篤哉 浜田さんは？  
宣子 何よ  
篤哉 いいの？ ほっといて  
宣子 今、札幌にいないから  
篤哉 え？  
宣子 出張で大阪  
篤哉 ああ  
宣子 一応電話したけど  
篤哉 話したの？  
宣子 かなりびっくりしてた  
篤哉 あっちのお母さんには  
宣子 浜田のお母さん？  
篤哉 言ったの  
宣子 言えないわよ  
篤哉 ……(仕事を続ける)  
宣子 何考えてるんだらう  
篤哉 ……  
宣子 どっちが先に来たの  
篤哉 どっちって  
宣子 ピアノと父さんと  
篤哉 ピアノ